



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年12月19日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



## 池上彰の さだまさしさんの見るいまの社会 12月19日(日)=1、3面



「池上彰のこれ聞いていいですか？」のお相手は、シンガー・ソングライターのさだまさしさん＝写真＝です。お二人の対談は初めて。東日本大震災や豪雨水害などの被災地をはじめ、コロナ禍での医療・福祉分野への支援活動について語り合いました。

また、歌を巡る話題では、さださんは「♪お前を嫁に——」と歌い出す「閑白宣言」は、最近歌いづらくなったという心境を明かしました。「言葉が衰退してしまった」とも。聴く人の心を動かす曲を作り続けているさださんは、現代社会をどう見ているのでしょうか。

## そこが聞きたい「元官僚が語る事前審査」

12月21日(火)＝オピニオン面



国会審議がセレモニー化している背景の一つに、国会提出前に政府作成の法案などを審査する与党の事前審査があるとされています。著書「ブラック霞が関」で官僚の過重労働を明かした元厚生労働官僚

の千正康裕さん(46)＝写真＝は、事前審査は霞が関のブラック化を生む要因でもあるとして改革の必要性を唱えています。過酷な労働環境と事前審査はどうつながっているのでしょうか。

## 特集 ワイド



## 美川憲一さんが語るNHK紅白論

大みそか恒例のNHK紅白歌合戦は近年、ネットで人気となった歌手が名を連ねる一方で、これまで親しまれてきた演歌・歌謡界の大物歌手が「卒業」を発表して紅白を去る場面が増えたように感じます。今年は出場回数が史上最多だった五

## 論点 ウイズコロナ テレワークの今後

12月22日(水)＝オピニオン面

新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、緊急事態宣言も解除されたことを受け、オフィスへの出社という従来の働き方に戻す企業が増えています。都市部では通勤ラッシュも復

活しています。コロナ禍で広まった在宅勤務やテレワークは、一時的なものだったのでしょうか。「ウイズコロナ」の時代にふさわしい働き方について、「働き方改革」を進

める企業の担当者や、識者に聞きました。



木ひろしさんの不出場が話題となり、紅白ファンや芸能界に波紋が広がりました。いわば大御所がいらない紅白について、26回の出場経験を持つ歌手の美川憲一さん(75)＝写真＝にインタビューしました。

12月22日(水)  
＝夕刊特集ワイド

新毎日

16日に開催したオンラインイベント「へ2021」でコロナが変えた世界、現場からの報告」は、海外特派員と医療プレミア編集長らが日本と世界のコロナ対策を比較し合い、「知っている」と「わかっていない」と感じられるような深い議論でした。司会のTBSSラジオ「荻上チキ・Sessions」の荻上さんが「面白いですね。もっと聞きたいです」を連続したイベントのアーカイブはこちらから。(石原聖)



竹橋の窓辺から

編集後記



150  
2022年2月21日  
毎日新聞創刊150年